

別寒辺牛

べかんべうし

2006年11月発行
NO.10

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより

カモやハクチョウの飛来が始まりました！！



前回発行の9号より、広報「あっけし」と一緒に配布しております。
水鳥観察館だより「べかんべうし」は、厚岸の自然環境、動植物などの旬の情報を提供しております。

❀❀ 11月の水鳥観察館周辺の状況 ❀❀

たくさんのカモ ♡ ハクチョウ ♡ 水鳥達の姿が見えはじめましたよ～

現在！！別寒辺牛湿原ではたくさんのカモ類の飛来が始まり、その種類は、約10種類！館内に設置されているスクリーンや2階の展望室からその姿を確認する事ができます。極東ロシアから飛来してきたカモ類は、別寒辺牛川や厚岸湖で少し骨休みをして11月後半から12月にかけて大半が本州方面（東北地方）に飛び立ち、残りは厚岸湖で越冬します。

オオハクチョウは10月13日に約13羽の飛来が確認され、徐々に増えています。群れの中に目立つ灰色のハクチョウは今年誕生した幼鳥です。他のカモ類と同じく極東ロシアから飛来して来て、これから12月頃までには、1万羽ほどが入れ替わり立ち替わり立ち寄り、カモ類と同じように大半が本州方面（主に東北）に飛び立ちます。そのうち1,500～3,000羽は厚岸湖で越冬します。



郁未

☆～豆知識～☆ ハクチョウやカモの主食を知ってますか？

カモ類の主食はほとんどが植物です！

カモ類はほとんどが水草をたべますが、中にはアイサと付く名前のカモ（カワアイサ、ウミアイサ他）類は潜水カモと呼ばれ、潜水して魚類を採食しています。ハクチョウの主食は植物です！小魚ではありません！

ハクチョウの話をするとう、魚を食べていると思っている人が多いことが分かりました。厚岸湖のオオハクチョウはおもに「アマモ」という水草を食べています。長い首を水中に伸ばして逆立ちをしたり、強い脚で水をかきながら、ちょっと不思議な光景ですが食事をしている光景がこれから市街地周辺でも見られるようになります。



★～ハクチョウにえさを与えないでください～★

これから冬にかけて厚岸湖や町近くなどで多くのハクチョウが見られるようになります。その可愛い姿を見るとつい・・・と言う気持ちは分かりますが人間が与えるエサによって十分な栄養が取れなくなったり「渡り鳥」の行動に支障をきたす恐れがあるなど良い結果にはならないのです。また町中で交通事故をおこす事もしばしば・・・

野生生物はペットではありません！！餌付け禁止にはぜひともご理解下さい。



☆タンチョウヒナのかくも悲しき人(鳥)生

厚

岸町内の別寒辺牛川水系には、約40つがいのタンチョウが営巣しています。そのうち2つがいが観察館周辺で見られるのですが、その片方の家族にとっても悲しい出来事がありました。

このヒナ1羽を連れている家族は、1回目の抱卵時には増水で浸水し繁殖失敗。2回目の営巣で4月29日頃抱卵、6月4日に1羽のヒナが孵化したつがいです。(卵は2個確認)

親の片方が見えなくなったのが7月20日頃。例年のごとくヨシが深いため、いつ片親がいなくなったかは正確にはわかりませんが、7月10日～20日の間と推定されます。原因は全く不明。

そしてもう片方の親を最後に見たのが8月8日の午前中。その日はそれ以降、線路沿いの死角に入り確認できていないので、この日の午後に親になにかあったのか？

翌日9日は、早朝から尾幌川河口干潟上で1羽おろおろしている単独のヒナを確認。



同時に、いつもにらみ合っていたお隣(上流側)のつがいがヒナの近くに接近。しばらく双方、川を挟んで様子

川をはさんでひとりぼっちのヒナ



同じく川をはさんでヒナをにらみつける侵入つがい

積極的にヒナに接近。そのうちまずメスが直接的に嘴で攻撃を仕掛け、ヒナは線路付近に退散。隣のタンチョウつがいに

としては、ヒナ1羽だけでもお隣のタンチョウの一族であることに変わりなく、縄張り争いの対象としてみてしまったようです。ただヒナは当然現状がよく分かっていないようで、おろおろするばかり。でもヒナは、自分の親ではないにしても、そのつがいの傍にはいたい様子。

そのヒナに対して、つがいは線路上まで追いかけて、接近したいヒナに対して、威圧歩行しながら、たまに背曲げ、オスは座りこみに転移羽づくろいなど執拗に一通り威嚇行動を行っていました。メスは、ヒナが接近しすぎると直接嘴で攻撃。そのたびにヒナはまた逃げるが、メスを避けるようにオスに付いていこうとする。オスもそのたびに威嚇行動をするが、直接攻撃することなく、ごく希に嘴でエサをくわえている姿も見られる。オスの方がちょっと葛藤しているのか???



線路上、つがいのそばにいたいヒナと攻撃するつがい

午後3時30分を過ぎると、線路から本流側湿地に降りて、その後深いヨシの中に入り消息不明。

明けて10日の午前10時頃、最初につがいを、その数十分後には割と近くにヒナを確認。ヒナは付かず離れず一定の距離を保ちながらつがいを追いかけている様子。

ところが、ななんと8月11日午後12時25分、昨日までさんざんヒナをいじめていたつがいと行動を共にするヒナを確認いたしました。

とりあえず、行動を共にすることについては許した感じはしますが、まだまだ動きがぎこちなく、ヒナもお隣つがいに餌をねだりませんし、お隣つがいもヒナに給餌は行ってません。

とりあえず感動の物語になりそうな気配...

刻々と状況が変化して、午後1時25分頃、オ

スがヒナに給餌をするのを確認しました。それと同時に、夫婦間で若干小競り合いが生じてい



るようで、非常に熱心に自分の子でないヒナに給餌するオスに、メスがちょっと気に入らない様子です。

その後も、もっぱらヒナはオスに

ヒナを一生懸命面倒みるオス 付きっきりで面倒を見てもらっている状態で、途中一度オスメスどちらが仕掛けたかはわかりませんが、夫婦間で攻撃（つまり夫婦喧嘩）しているのも確認しました。

オスとヒナがべったり、メスが後をついていく、といったますますドラマティックな展開になってきました。明日はメスが家出するか？なんてシナリオも考えたほどです。（後日、タンチョウの専門家、正富先生に聞いたところ、タンチョウのつがい仲、つまり夫婦仲にもつがい毎にかなりの温度差があるようで、決してみんなが同じように仲がいいわけではない、という話を聞きました。）

一体このヒナが何の悪さをしたというのでしょうか。8月13日、早朝7時23分糸魚沢発の列車に7時半頃衝突し即死。運転士は80km/hで走行中、約150m手前でつがいとヒナを確認。急停止したのです

が、間に合わなかったようです。運転士さんも、下車して確認して下さいましたが、その時点では死体は確認できず。朝9時過ぎ、釧路駅



ひかれたヒナを心配するオス

の施設指令よりタンチョウをひいた可能性があるとの連絡があり、JR厚岸駅の協力で午前11時15分にヒナの死体を回収いたしました。

両親が1羽づついなくなり、隣のメスにいじめられ、受け入れられてうまく育ててもらえる

かと思った矢先の出来事に、一体このヒナの命は何だったんだろうと考えさせられてしまいました。

野生生物は、人間の想像を超えた、人間にとって見れば不思議に見える行動がたくさんあります。しかしそれらは、それぞれの生き物が、自分たちがよりよく生きていくために獲得した本能や、後天的に獲得した知恵であったりするのです。

私たち野生生物に携わる人間は、あまり極端に野生生物の行動を擬人化して感情移入しないように努めています。それは、野生生物本来の生態を、人間の先入観で曲げてしまうことを避けるためなのですが、タンチョウだけはどうしてもそうはいきませんね。まるで人間の人生を見ているようで...

水鳥観察館専門員 澁谷 辰生



死亡したヒナ。その後、釧路市動物園に運ばれた。

★★10月の水鳥観察館利用状況★★



霧多布小学校2年生 25人の皆さん

10月11日に社会見学の一環で霧多布小学校2年生の皆さんが水鳥観察館を訪れ、9時30分から11時までの1時間30分、館内に設置されているスクリーンの前で湿原のライブ映像を見ながら専門員の行う湿原の話や鳥の話真剣に聞いていました。話が終わると元気に手を上げて質問をするなど皆さんの熱心な

態度に感動させられました。その後は2班に分かれて、レクチャールームでの自然の素材（貝殻、小石、枯れ葉、その他）を活かした作品作り、同時にもう1班は観察館の近くを流れる大別川で、生息する生物達（トゲウオ、ハゼ類、スジエビなど）の観察を行い、特に外での観察は歓声が上がるほど楽しいものになったようです。

❀❀このように水鳥観察館では、毎月釧路管内の保育園や小学校、道内外の高校の皆さんが社会科見学や修学旅行などで利用しています。



JICA（国際協力機構）研修



10月20日、JICA研修で、ブータン、ネパール、ルーマニア、ボスニア・ヘルツェゴビナから6人の研修生の皆さんが水鳥観察館を訪れました。研修の内容は、「自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）」と言う事で、10時から13時までの3時間、観察館事業の解説、レクチャールームで折り紙飛行機作りにも挑戦し、手先の起用さにもお国柄が出て一喜



❀❀海外からの来館者も少なくはありません！

～11月の予定～（野鳥観察会）

♥ 湿原に入りタンチョウの巣作りに挑戦しま～す ♥

♣ 野鳥観察会場所 ♣（水鳥観察館）

日 時：11月11日（土曜日）

集合場所：（水鳥観察館）

時 間：9時30分～12時00分

持 ち 物：長靴必須、軍手、はさみ、防寒対策はしっかりと！

❀雨天の場合は水鳥観察館内でタンチョウの学習会を行います。

★★レクチャールームは開館中であれば、いつでも使用できます★★



あっけし みずどり かんさつかん ☎088-1140

厚岸水鳥観察館

北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ6番地
TEL (0153)52-5988 FAX (0153)53-2121
URL: <http://www.marimo.or.jp/AWOC/>

